

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所ぶりんぐ		
○保護者評価実施期間	2026年2月1日 ～ 2026年3月7日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	39	(回答者数) 37
○従業者評価実施期間	2026年2月1日 ～ 2026年3月7日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月7日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	マンツーマンの個別療育であること	心理職による知能検査を通したアセスメント 一人ひとりの発達のニーズに合わせた療育	職員の専門性向上のため、研修や学習会を継続的に行う
2	家族支援として毎回の面談があること	家庭や園・小学校での様子を聞き取りながら、お子さんへの理解を深めている	保護者向けの講習会、保護者会の後援など
3	TEACCH,ABAに基づいた療育	構造化による環境調整を多数行っている。 例:スケジュールの使用、担当や部屋ごとの色分け、イラストや写真による視覚化など	家庭と連携して行う療育（PECS、絵カード選択、パズル課題など）

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	粗大運動を扱う取り組みが少ない	専門家の不在、設備の有無	専門職の雇用。講習等を通して専門的な知識を学んだ上で、取り入れられるものは取り入れていきたい。
2	他児との関わりが少ない	個別療育を重視しているため	今のところ改善の必要性なしと判断
3	各種マニュアル、イベント・行事などの周知が不十分	HPの存在の周知不足 お便りの発行頻度が少ない	事業所内に掲示して周知 保護者用本棚の設置を検討 お便り発行頻度の見直し